

八戸市新美術館整備基本構想の概要について

1. ビジョン

アート・エデュケーション・ファーム
～種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～

「八戸の美」に迫る

「八戸の人」を育む

「八戸のまち」に波及させる

2. ミッション

① 「八戸の美」に迫るために

- 日常生活に潜む美をアートの力で可視化・資源化し世界へ発信
- 収蔵作品やアート活動を地域の宝として記録・保存し後世へ継承
- 八戸でしか作り得ない作品が生まれる環境を創出

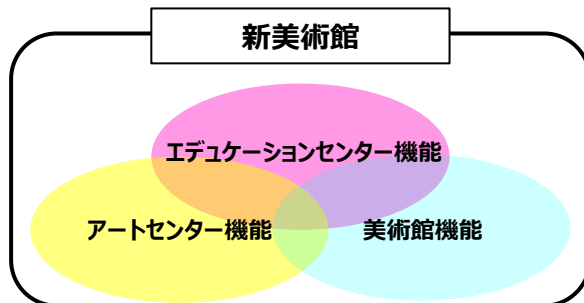
② 「八戸の人」を育むために

- 本物の美術と向き合える体験機会と創作・表現活動の場を提供
- 新しい視座で新しい価値や関係性を創る人が生まれる環境を整備
- 生きたコミュニケーションの場や生きる力を体得できる場を構築

③ 「八戸のまち」に波及させるために

- 様々なアート活動から新たな活動の発展につながる交流の場を創出
- アートが身近に感じられる環境を創出
- 市内や北東北の各圏域と密接につながった双方向的な活動を展開

- 従来の「美術館機能」と文化政策の司令塔としての「アートセンター機能」に、「エデュケーションセンター機能」の3つの軸を併せ持つ美術館として整備。
- 「博物館相当施設」としての整備を検討。



3. アクション

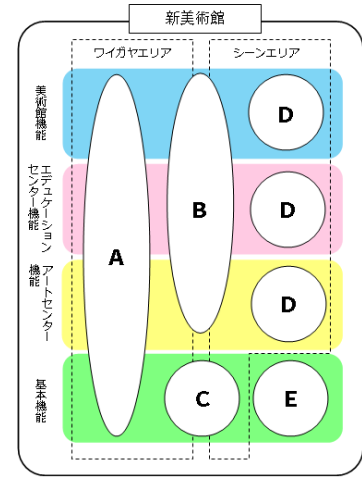
(1) 事業展開

グローバルミュージアム事業	・地域性にこだわり八戸を世界とつなぐ美術館事業（調査研究、収集保存、展示等）
アートエデュケーション事業	・文化とまちをつくる人を育む共育普及事業（大学・高専連携、エデュケーションプログラム開発等）
アートのまちづくり推進事業	・アートの力をまちを動かす力に変える文化創造事業（多文化推進、アートプロジェクト、情報発信等）

(2) 施設整備方針

3つの機能が複合的に事業展開できるよう、フレキシブルな使い方が可能な空間整備を検討するほか、いつも活気があり、創造の種が生まれる雰囲気のある「ワイガヤエリア」と、非日常的な空間としての「シーンエリア」の2つの顔を持つ美術館としての整備を検討する。

- 「A」：入場者及び運営スタッフが相互交流できる開放的ゾーン
- 「B」：自由度の高い利用を可能とするゾーン
- 「C」：「ワイガヤエリア」と「シーンエリア」をつなぐゾーン。
- 「D」：美術館としての非日常性や風格を漂わせるゾーン
- 「E」：関係者専用ゾーン



4. 整備プラン

整備スケジュール

- H28：基本構想策定、設計者選定
管理運営計画策定着手
- H29：基本・実施設計、建物解体
- H30：建築工事（～H31）
- H32：開館予定

設計者選定

設計段階で多様な意見を反映できるように、公募型の企画提案方式（プロポーザル方式）を採用する

<建設予定地>

